

【個別】介護職員初任者研修 シラバス

科目及び研修時間数	1 職務の理解 (6時間)		
ね ら い	研修に先立ち、これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的イメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。		
目 標	研修課程全体の構成と各研修科目相互の関連性の全体像をあらかじめイメージできるようになる。		
	見学・実習をとおして、介護職が働く現場や仕事の内容を理解する。		
項 目	スクーリング	通信	内 容
	時間数	時間数	講 義・通 信 課 題 演 習
(1) 多様なサービスの理解	3	/	○介護保険サービス(居宅、施設)、 介護保険外サービスについて理解する
(2) 介護職の仕事内容や働く現場の理解	3		○居宅、施設の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事内容について理解する ○施設見学や現場職員の体験談を通して、居宅、施設の実際のサービス提供現場の具体的にイメージする ○ケアプランの位置づけに始まるサービスの提供に至るまでの、一連の業務の流れとチームアプローチ・他職種、介護保険外サービスを含めた地域の社会資源との連携について理解する
合 計	6		

使用テキスト	介護職員初任者研修 テキスト 長寿社会開発センター発行
使用する機器・備品等	パワーポイント、視覚教材等
備 考	

【個別】介護職員初任者研修 シラバス

科目及び研修時間数	2 介護における尊厳の保持・自立支援（9時間）		
ね ら い	介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点及びやってはいけない行動例を学ぶ。		
目 標	具体的な事例をとおして、利用者およびその家族の要望にそのまま応えることと、自立支援・介護予防という考え方に基づいたケアを行うことの違いを理解する。		
	具体的な事例をとおして、利用者の残存機能を効果的に活用しながら自立支援や重度化の防止・遅延化に資するケアを理解する。		
	利用者の尊厳を著しく傷つける言動とその理由について考え、理解する。		
	虐待を受けている高齢者への対応方法を知り、高齢者虐待について理解する。		
項 目	スクーリング 時間数	通 信 時間数	内 容
			講 義・通 信 課 題 演 習
(1) 人権と尊厳を支える 介護	1	4	<ul style="list-style-type: none"> ○個人として尊重、アドボカシー、エンパワメントの視点、「役割」の実感、尊厳ある暮らし、利用者のプライバシーの保護について理解する ○介護分野におけるICFについて理解する ○QOLの考え方、生活の質について理解する ○ノーマライゼーションの考え方について理解する ○身体拘束禁止、高齢者虐待防止法、高齢者の養護者支援について理解する ○個人情報保護法、成年後見制度、日常生活自立支援事業について理解する
(2) 自立に向けた介護	0.5	3.5	<ul style="list-style-type: none"> ○自立・自律支援、残存能力の活用、動機と欲求、意欲を高める支援、個別性/個別ケア、重度化防止について理解する ○介護予防の考え方について理解する
合 計	1.5	7.5	

使 用 テ キ ス ト	介護職員初任者研修 テキスト 長寿社会開発センター発行
使用する機器・備品等	長寿社会開発センター発行DVD、パワーポイント、視覚教材等
備 考	

【個別】介護職員初任者研修 シラバス

科目及び研修時間数	3 介護の基本 (6時間)			
ね ら い	<p>介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを学ぶ。</p> <p>介護を必要としている人の個性を理解し、その人の生活を支えるという視点からの支援方法を学ぶ。</p>			
目 標	<p>介護職に求められる専門性を理解する。</p> <p>介護におけるリスクに気づき、緊急対応の重要性を理解するとともに、場合によってはそれに1人で対応しようとせず、サービス提供責任者や医療職と連携することの重要性を理解する。</p>			
項 目	スクーリング 時間数	通 信 時間数	内 容	
			講 義・通 信 課 題	演 習
(1) 介護職の役割、専門性と多職種との連携	1.5		<ul style="list-style-type: none"> ○訪問介護と施設介護サービスの違い、地域包括ケアの方向性について理解する ○重度化防止・遅延化の視点、利用者主体の支援姿勢、自立した生活を支える為の援助、根拠のある介護、チームケアの重要性、事業所内のチーム、多職種から成るチームについて理解する ○異なる専門性を持つ多職種の理解、介護支援専門員、サービス提供責任者、看護師等とチームとなり利用者を支える意味、互いの専門職能力を活用した効果的なサービスの提供、チームケアにおける役割分担について理解する 	○グループディスカッション
(2) 介護職の職業倫理	1.5		○専門職の倫理の意義、介護の倫理、介護職としての社会的責任、プライバシーの保護・尊重について理解する	
(3) 介護における安全の確保とリスクマネジメント		1.5	<ul style="list-style-type: none"> ○事故に結びつく要因を探り対応していく技術、リスクとハザードについて理解する ○リスクマネジメント、分析の手法と視点、家族や市町村へ事故に至った経緯の報告、情報の共有について理解する ○感染の原因と経路、「感染」に対する正しい知識について理解する 	
(4) 介護職の安全		1.5	○介護職の健康管理が介護の質に影響、ストレスマネジメント、腰痛の予防に関する知識、手洗い・うがいの励行、手洗いの基本、感染症対策について理解する	
合 計	3	3		

使用テキスト	介護職員初任者研修 テキスト 長寿社会開発センター発行
使用する機器・備品等	パワーポイント、視覚教材等
備 考	

【個別】介護職員初任者研修 シラバス

科目及び研修時間数	4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携（9時間）			
ね ら い	介護保険制度や障害者総合支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について学ぶ。			
目 標	介護保険制度・障害者総合支援制度を担う一員として、介護保険制度の理念を理解する。 「利用者の生活を中心に考える」という視点を共有し、その生活を支援するための介護保険制度、障害者総合支援制度、その他制度のサービスの位置づけや、代表的なサービスを理解する。			
項 目	スクーリング 時間数	通 信 時間数	内 容	
			講 義・通 信 課 題	演 習
(1) 介護保険制度	/	4	<ul style="list-style-type: none"> ○ケアマネジメント、予防重視型システムへの転換、地域包括支援センターの設置、地域包括ケアシステムの推進について理解する ○保険制度としての基本的仕組み、介護給付と種類、予防給付、要介護認定の手順について理解する ○財政負担、指定介護サービス事業者の指定について理解する 	○グループディスカッション
(2) 医療との連携とリハビリテーション		1.5	○医療行為と介護、訪問看護、施設における看護と介護の役割・連携、リハビリテーションの理念について理解する	
(3) 障害者総合支援制度およびその他制度		3.5	<ul style="list-style-type: none"> ○障害の概念、ICF(国際生活機能分類)について理解する ○介護給付・訓練等給付の申請から支給決定までについて理解する ○個人情報保護法、成年後見制度、日常生活自立支援事業について理解する 	
合 計	1.5	7.5		

使用テキスト	介護職員初任者研修 テキスト 長寿社会開発センター発行
使用する機器・備品等	パワーポイント、視覚教材等
備 考	

【個別】介護職員初任者研修 シラバス

科目及び研修時間数	5 介護におけるコミュニケーション技術（6時間）		
ね ら い	高齢者や障がい者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを取ることが専門職に求められていることを認識し、初任者として最低限取るべき、あるいは取るべきではない行動例を学ぶ。		
目 標	<p>利用者の心理や利用者との人間関係を著しく傷つけるコミュニケーションとその理由について考え、相手の心身機能に合わせた配慮ができるようになる。</p> <p>チームケアにおける専門職種間でのコミュニケーションの有効性や重要性を理解する。</p>		
項 目	スクーリング	通信	内 容
	時間数	時間数	講 義・通信課題 演 習
(1) 介護におけるコミュニケーション	1.5	1.5	<ul style="list-style-type: none"> ○相手のコミュニケーション能力に対する理解や配慮、傾聴、共感の応答について理解する ○言語的コミュニケーションの特徴、非言語コミュニケーションの特徴について理解する ○利用者の思いを把握する、意欲低下の要因を考える、利用者の感情に共感する、家族の心理的理解、家族へのいたわりと励まし、信頼関係の形成について理解する ○自分の価値観で家族の意向を判断し非難することがないようにする ○アセスメントの手法とニーズとデマンドの違いについて理解する ○視力、聴力の障害に応じたコミュニケーション技術、失語症に応じたコミュニケーション技術、構音障害に応じたコミュニケーション技術、認知症に応じたコミュニケーション技術について理解する
(2) 介護におけるチームのコミュニケーション	1.5	1.5	<ul style="list-style-type: none"> ○介護における記録の意義・目的、利用者の状態を踏まえた観察と記録について理解する ○介護に関する記録の種類、個別援助計画書、ヒヤリハット報告書、5W1Hについて理解する ○報告の留意点、連絡の留意点、相談の留意点について理解する ○会議、情報共有の場、役割の認識の場、ケアカンファレンスの重要性について理解する
合 計	3	3	

使用テキスト	介護職員初任者研修 テキスト 長寿社会開発センター発行
使用する機器・備品等	パワーポイント、視覚教材等
備 考	

【個別】介護職員初任者研修 シラバス

科目及び研修時間数	6 老化の理解 (6時間)			
ね ら い	加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解する。			
目 標	高齢者に多い心身の変化、疾病の症状等について、その対応における留意点から、介護における生理的側面の知識を身につける。			
項 目	スクーリング 時間数	通 信 時間数	内 容	
			講 義・通 信 課 題	演 習
(1) 老化に伴うこととからだの変化と日常	1.5	1.5	<ul style="list-style-type: none"> ○防衛反応(反射)の変化、喪失体験について理解する ○身体的機能の変化と日常生活への影響、咀嚼機能の低下、筋・骨・関節の変化、体温維持機能の変化、精神的機能の変化と日常生活への影響について理解する 	○グループディスカッション
(2) 高齢者と健康	1.5	1.5	<ul style="list-style-type: none"> ○骨折、筋力の低下と動き・姿勢の変化、関節痛について理解する ○循環器障害(脳梗塞、脳出血、虚血性心疾患)、循環器障害の危険因子と対策、老年期うつ病症状、誤嚥性肺炎、病状の小さな変化に気付く視点、高齢者は感染症にかかりやすいについて理解する 	
合 計	3	3		

使 用 テ キ ス ト	介護職員初任者研修 テキスト 長寿社会開発センター発行
使用する機器・備品等	パワーポイント、視覚教材等
備 考	

【個別】介護職員初任者研修 シラバス

科目及び研修時間数	7 認知症の理解 (6時間)		
ね ら い	介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護する時の判断の基準となる原則について学ぶ		
目 標	認知症の利用者の心理や実際の行動から、介護において認知症を理解することの必要性に気づく。 具体的なケースをとおして、認知症の利用者を介護するうえでの原則を理解する		
項 目	スクーリング	通 信	内 容
	時間数	時間数	講 義・通 信 課 題
(1) 認知症を取り巻く状況	1	0.5	○パーソンセンタードケア、認知症ケアの視点について理解する
(2) 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	0.5	1	○認知症の定義、もの忘れとの違い、せん妄の症状、健康管理(脱水・便秘・低栄養・低運動の防止、口腔ケア)、治療、薬物療法、認知症に使用される薬について理解する
(3) 認知症に伴うこととからだの変化と日常生活	1	0.5	○認知症の中核症状、認知症の行動・心理症状(BPSD)、不適切なケア、生活環境で改善するということを理解する ○本人の気持ちを推察する、プライドを傷つけない、相手の世界に合わせる、失敗しないような状況をつくる、すべての援助行為がコミュニケーションであると考え、身体を通じたコミュニケーション、相手の様子・表情・視線・姿勢などから気持ちを洞察する、認知症の進行に合わせたケアについて理解する
(4) 家族への支援	0.5	1	○認知症の受容過程での援助、介護負担の軽減(レスパイトケア)を理解する
合 計	3	3	

使用テキスト	介護職員初任者研修 テキスト 長寿社会開発センター発行
使用する機器・備品等	パワーポイント、視覚教材等
備 考	

【個別】介護職員初任者研修 シラバス

科目及び研修時間数	8 障がいの理解 (3時間)			
ね ら い	障がいの概念とICF、障がい者福祉の基本的な考え方や介護における基本的な考え方について学ぶ。			
目 標	介護において障がいの概念とICFを理解する。			
	高齢者の介護との違いを念頭におきながら、それぞれの障がいの特性と介護上の留意点について理解する。			
項 目	スクーリング 時間数	通 信 時間数	内 容	
			講 義・通 信 課 題	演 習
(1) 障がいの基礎的理解	0.5	0.5	○ICFの分類と医学的分類、ICFの考え方について理解する ○ノーマライゼーションの概念について理解する	○グループディスカッション
(2) 障がいの医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	0.5	0.5	○視覚障害、聴覚・平衡障害、音声・言語・咀嚼障害、肢体不自由、内部障害について理解する ○知的障害について理解する ○統合失調症・気分(感情障害)、依存症などの精神疾患、高次脳機能障害、広汎性発達障害・学習障害・注意欠陥多動性障害などの発達障害について理解する	
(3) 家族の心理、かかわり支援の理解	0.5	0.5	○障害の理解・障害の受容支援、介護負担の軽減について理解する	
合 計	1.5	1.5		

使用テキスト	介護職員初任者研修 テキスト 長寿社会開発センター発行
使用する機器・備品等	パワーポイント、視覚教材等
備 考	

【個別】介護職員初任者研修 シラバス

科目及び研修時間数	9 ところとからだのしくみと生活支援技術（75時間）		
ね ら い	介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護について学ぶ。		
	尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。		
目 標	介護実践に必要なところとからだのしくみの基礎的な知識を学び、具体的な身体の各部の名称や機能等が列挙できるようになる。		
	利用者にとっての生活の充足を提供し、かつ、不満足を感じさせない技術を習得する。		
	「死」に向かう生の充実と尊厳ある死について考えることができるようになる。		
項 目	スクーリング 時間数	通 信 時間数	内 容
			講 義・通 信 課 題 演 習
I 基本知識の学習(13時間)			
(1) 介護の基本的な考え方	1	1	○理論に基づく介護(ICFの視点に基づく生活支援、我流介護の排除)について理解する ○法的根拠に基づく介護について理解する
(2) 介護に関するところのしくみの基礎的理解	3	2	○学習と記憶の基礎知識について理解する ○感情と意欲の基礎知識について理解する ○自己概念と生きがいの理解について理解する ○老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因について理解する ○ところの持ち方が行動に与える影響について理解する ○からだの状態がところに与える影響について理解する
(3) 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	3	3	○人体の各部の名称と動きに関する基礎知識について理解する ○骨・関節・筋に関する基礎知識、ボディメカニクスの活用について理解する ○中枢神経系と体性神経に関する基礎知識について理解する ○自律神経と内部器官に関する基礎知識について理解する ○ところとからだを一体的に捉えるということを理解する ○利用者の様子の普段との違いに気づく視点について理解する
小 計	7	6	

【個別】介護職員初任者研修 シラバス

科目及び研修時間数	9 ところとからだのしくみと生活支援技術（75時間）		
ね ら い	介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護について学ぶ。		
	尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。		
目 標	介護実践に必要なところとからだのしくみの基礎的な知識を学び、具体的な身体の各部の名称や機能等が列挙できるようになる。		
	利用者にとっての生活の充足を提供し、かつ、不満足を感じさせない技術を習得する。		
	「死」に向かう生の充実と尊厳ある死について考えることができるようになる。		
項 目	スクーリング 時間数	通 信 時間数	内 容
			講 義・通 信 課 題 演 習
II 生活支援技術の学習(50時間)			
(4) 生活と家事	6	/	○生活歴、自立支援、予防的な対応、主体性・能動性を引き出す、多様な生活習慣、価値観について理解する ○グループディスカッション等
(5) 快適な居住環境整備と介護	6	/	○家庭内に多い事故、バリアフリー、住宅改修、福祉用具貸与について理解する ○福祉機器体験
(6) 整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6	/	○身体状況に合わせた衣服の選択、着脱、身じたく、整容行動、洗面の意義・効果について理解する ○衣類の着脱介助演習

【個別】介護職員初任者研修 シラバス

科目及び研修時間数		9 ところとからだのしくみと生活支援技術（75時間）		
ね ら い	介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護について学ぶ。			
	尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。			
目 標	介護実践に必要なところとからだのしくみの基礎的な知識を学び、具体的な身体の各部の名称や機能等が列挙できるようになる。			
	利用者にとっての生活の充足を提供し、かつ、不満足を感じさせない技術を習得する。			
	「死」に向かう生の充実と尊厳ある死について考えることができるようになる。			
項 目	スクーリング 時間数	通 信 時間数	内 容	
			講 義・通 信 課 題	演 習
II 生活支援技術の学習				
(7) 移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6		<ul style="list-style-type: none"> ○利用者との介護者の双方が安全で安楽な方法について理解する ○利用者の自然な動きの活用について理解する ○残存能力の活用・自立支援について理解する ○重心・重力の働き、ボディメカニクスの基本原理について理解する ○移乗介助の具体的な方法について理解する ○移動介助、褥瘡予防について理解する 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 移動・移乗介助演習 ○ 車椅子への移乗 ○ ベットへの移乗 ○ 車椅子での移動 ○ グループディスカッション
(8) 食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6		<ul style="list-style-type: none"> ○食事をする意味、食事のケアに対する介護者の意識について理解する ○低栄養の弊害、脱水の弊害について理解する ○食事と姿勢、咀嚼・嚥下のメカニズムについて理解する ○空腹感・満腹感・好み、食事の環境設備、口腔ケアの定義について理解する ○食事に関する福祉用具の活用と介助方法について理解する ○誤嚥性肺炎の予防について理解する 	<ul style="list-style-type: none"> ○介護食体験 ○食事介助演習 ○グループディスカッション
(9) 入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6		<ul style="list-style-type: none"> ○羞恥心や遠慮への配慮、体調の確認、全身清拭について理解する ○目・鼻腔・耳・爪の清潔方法、陰部清浄、足浴・手浴・洗髪について理解する 	<ul style="list-style-type: none"> ○模擬風呂による入浴介助演習 ○グループディスカッション

【個別】介護職員初任者研修 シラバス

科目及び研修時間数	9 ころとからだのしくみと生活支援技術（75時間）			
ね ら い	介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護について学ぶ。			
	尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。			
目 標	介護実践に必要なころとからだのしくみの基礎的な知識を学び、具体的な身体の各部の名称や機能等が列挙できるようになる。			
	利用者にとっての生活の充足を提供し、かつ、不満足を感じさせない技術を習得する。			
	「死」に向かう生の充実と尊厳ある死について考えることができるようになる。			
項 目	スクーリング 時間数	通 信 時間数	内 容	
			講 義・通 信 課 題 演 習	
II 生活支援技術の学習				
(10) 排泄に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護	6		<ul style="list-style-type: none"> ○ 排泄について理解する ○ 身体面での意味、心理面での意味、社会的な意味について理解する ○ プライド・羞恥心、プライバシーの確保について理解する ○ おむつは最後の手段/おむつ使用の弊害について理解する ○ 排泄障害が日常生活上に及ぼす影響、便秘の予防について理解する ○ 排泄ケアを受けることで生じる心理的な負担・尊厳や生きる意欲との関連について理解する ○ 一部介助を要する利用者のトイレ介助の具体的方法について理解する 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 排泄介助演習 ○ グループディスカッション
(11) 睡眠に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護	4	1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 安眠のための介護の工夫について理解する ○ 環境の整備、安楽な姿勢・褥瘡予防について理解する 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ベットメイキング演習 ○ グループディスカッション
(12) 死にゆく人に関するころとからだのしくみと終末期介護	2	1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 終末期ケアについて理解する ○ 高齢者の死に至る過程について理解する ○ 臨終が近づいたときの兆候と介護について理解する ○ 介護従事者の基本的態度、多職種間の情報共有の必要性について理解する 	<ul style="list-style-type: none"> ○ グループディスカッション
小 計	48	2		

【個別】介護職員初任者研修 シラバス

科目及び研修時間数	9 ころとからだのしくみと生活支援技術（75時間）			
ね ら い	介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護について学ぶ。			
	尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。			
目 標	介護実践に必要なころとからだのしくみの基礎的な知識を学び、具体的な身体の各部の名称や機能等が列挙できるようになる。			
	利用者にとっての生活の充足を提供し、かつ、不満足を感じさせない技術を習得する。			
	「死」に向かう生の充実と尊厳ある死について考えることができるようになる。			
項 目	スクーリング 時間数	通 信 時間数	内 容	
			講 義・通 信 課 題	演 習
Ⅲ 生活支援技術の演習(12 時間)				
(13) 介護過程の基礎的理解	3	1	○介護過程の目的・意義・展開について理解する ○介護過程とチームアプローチについて理解する	○グループディスカッション
(14) 総合生活支援技術演習	5	3	○事例の提示→ころとからだの力が発揮できない要因の分析→適切な支援技術の検討→支援技術演習→支援技術の課題 ○事例は高齢者(要支援2程度、認知症、片麻痺、座位保持不可)から2事例を選択して実施する	○グループディスカッション ○事例検討
小 計	8	4		
合 計	63	12		

使用テキスト	介護職員初任者研修 テキスト 長寿社会開発センター発行
使用する機器・備品等	車椅子、介護用ベッド、介護食、入浴セット、オムツ、衣類、シーツ一式、調理台等
備 考	

【個別】介護職員初任者研修 シラバス

科目及び研修時間数	10 振り返り (4時間)			
ね ら い	研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認するとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成や学習課題の認識をはかる。			
目 標	在宅、施設のいずれの場合であっても、“利用者の生活の拠点に共に居る”という意識を持って、介護を行えるようになる。			
	利用者の生活を支援する根拠に基づく介護の要点について再確認する。			
項 目	スクーリング 時間数	通 信 時間数	内 容	
			講 義・通 信 課 題	演 習
(1) 振り返り	3	/	<ul style="list-style-type: none"> ○研修を通して学んだことを考える ○今後継続して学ぶべきことを考える ○根拠に基づく介護についての要点 (利用者の状態像に応じた介護と介護過程、身体・心理・社会面を総合的に理解するための知識の重要性、チームアプローチの重要性等)を理解する 	<ul style="list-style-type: none"> ○介護技術の振り返り 受講生より要望の多かった実技について振り返り演習をおこなう。 ○介護施設等の実習施設を訪問する。
(2) 就業への備えと研修終了後における継続的な研修	1		<ul style="list-style-type: none"> ○継続的に学ぶべきことを考える ○研修終了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような事業所等における事例を紹介する 	
合 計	4			

使用テキスト	介護職員初任者研修 テキスト 長寿社会開発センター発行
使用する機器・備品等	車イス、ベッド等
備 考	